

美術科学習指導案

生徒 第2学年A組 男子19名 女子21名 計40名
 指導者 教諭 富尾 拓

I 題材 『立体マンダラ [白い塔編] 』

II 題材について

本美術科では、「学びの深まりが自覚できる美術の学習指導をめざして」を主題とし、生徒一人一人の発想・構想における思考の跡や作品等の鑑賞を通じて深まった価値感の広がりなどを可視化することを通じて、個々に応じた指導をめざし、生徒に学びの深まりを実感させていきたいと実践研究に取り組んでいる。

本題材で取り上げるマンダラは、「聖なる輪」を意味する言葉で、今から1500年くらい前にインドで生まれたものである。マンダラは秩序正しく幾何学的に構成された画面に、地・水・火・風・空といった宇宙の根源的な要素を表す「象徴」(シンボル)が配置され、「自己」と「世界」との調和や統合、広がりといった古代の人々の思想観が込められている。このマンダラの要素を利用した立体作品の共同制作を通して、統一や変化などの美の秩序や構成の基本を学び、部分と全体の関係や色彩や形を通じて自分の思いや考えを表出させることの面白さを体感させることをねらいとしている。

III 題材の指導目標

- (1) 仲間と制作することへの魅力や立体造形物の表現方法を理解させ、作品を制作・鑑賞することを通して興味や関心をさらに深めようとする。 **【美術への関心・意欲・態度】**
- (2) テーマに合った表現のイメージを発想し、ふくらませ、構想を練って、総合的に作品としてまとめさせる。 **【発想・構想の能力】**
- (3) 計画的・段階的に表現し、造形的なコミュニケーションを図る力を高めさせる。 **【創造的な技能】**
- (4) 自他の作品を互いに批評し合うことにより、表現しなかったイメージを感じ取ったり、互いの良さや個性を理解できるようにさせる。 **【鑑賞の能力】**

IV 本題材における言語活動

- ・五感を活用し感じ取ったことを表現する《感受・表現》
- ・互いの考えを伝え合い、表現を深める《討論・共同》

V 題材の評価基準

ア 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
表現 ・伝えたい内容を立体として表現することに興味や関心をもち、構想を練ろうとしている。 鑑賞 ・作品の交流や鑑賞を通じて、造形的なよさや美しさ、作品の多様性を理解するとともに、自分の作品に生かすための視点を見出そうとしている。	・「地・水・火・風・空」という主題を基に美の秩序や構成の基本を利用して立体模型の表現方法を考え、形や色彩、素材などの効果に気づきながら表現の構想をしている。	・形を単純化したり、強調した表し方を身に付け表したいイメージをもちながら、意図に応じて素材の生かし方を考え、創意工夫して表現している。	・自他の作品の造形的なよさや美しさについて、視点をもって感じ取り、自分の思いをもって味わっている。

VI 指導と評価の計画 (13 時間扱い・・・本時4/13)

月	題材	指導目標	主な学習活動	時数	《言語活動系統表》との関連
	立体マンダラ	①諸外国の文化に興味・関心をもたせ、そのよさや、雰囲気などを感じ取る感性を高めさせる。 ②視覚的に伝えるメッセージの魅力を味わわせ、諸外国の色彩感覚や構成の工夫などを感じ取らせる。	出会う 鑑賞：題材のオリエンテーション ・諸外国の文化や思想を理解し、マンダラを鑑賞し、表現の工夫や構成の効果を感じ取る。	1	《感受・表現》
		③自分のアイデアを生かしながら、デザイン活動を楽しませる。 ④テーマに合った表現のイメージを発想し、形や色のもつ色彩や素材、空間の構成を効果的、総合的に構想させる。	広げる 表現：テーマの構想 ・「地・水・火・風・空」というテーマから条件をふまえて自分が表現したい内容を発想し、構想のアイデアを考える。	1	《構想・実践》
		⑤色彩や配色の効果を身につけようとし、それを生かして表現や鑑賞の活動に楽しく取り組み、その喜びを味わわせる。 ⑥色彩や配色の基礎的な知識を身につけ、表現に創造的に生かしながら、効果的に制作させる。	深める 演習：色彩の工夫 ・自分の表現を他に伝えるための効果的な方法や印象に残る表現の共通点を見つける。	1	《構想・実践》
		⑦見る人（伝える人）の立場を考えたデザインの楽しさを味わわせる。 ⑧他と協力してテーマに沿った表現をすることができるように、自分らしい発想を広げさせる。	深める 演習：「形からイメージを広げる」 ・3つの演習から自分の必要に応じた内容を選択し、取り組む。構想を練り直し、テーマに合った構成を効果的、総合的に構想する。	1 本時1/1	《構想・実践》
		⑨自分のアイデアを生かしながら、デザインの表現活動を楽しませる。 ⑩テーマに合った表現のイメージを発想し、形や色のもつ色彩や素材、空間の構成を効果的、総合的に構想させる。 ⑪自分のイメージに合った材料や技法を自分なりに工夫させる。 ⑫いろいろな形や色、光の効果から、空間を演出するさまざまな工夫を感じ取らせる。	創る ※共同制作 表現：立体マンダラの制作 ・自分たちの思いやコンセプトを表現するために、形や色彩、素材を工夫して制作する。	8	《討論・協同》
		⑬立体表現に興味・関心をもたせ、そのよさや美しさ、情感、雰囲気などを感じ取る感性を高めさせる。 ⑭制作や発表を通じて、コミュニケーションや批評をし合い、表現したかったイメージを感じ取ったり、互いのよさや個性を理解させる。	伝える 鑑賞：プレゼンテーション ・作品を発表し、鑑賞し合う。	1	《討論・協同》

「A表現(1)イ(3)自分の思いや考えの表現」の評価規準・評価方法

観点	指標	評価方法	Aのキーワード・具体例	評価規準	Cへの手立て
関心・意欲・態度	①③⑤ ⑦⑨	・作品 ・ワークシート ・授業観察 ・制作のあしあと(自己評価の変容)	共通点や相違点に気づきながら 主体的に 形や色彩などの特徴や印象、 よさや美しさ 常に集中して 他者の作品や意見を基に 自分の価値意識をもって	・諸外国の美術や文化に関心を持ち、主体的にそのよさや面白さを理解しようとしている。 ・内面を表現することに関心を持ち、主題を生み出し構想を練ろうとしている。 ・自然物や造形物の色彩に関心を持ち、自分の主題を生み出そうとしている。 ・対象を見つめ感じ取った形や色、素材の特徴を表すことに関心を持ち、主体的に表現しようとしている。 ・伝えたい内容を平面や立体として表現することに興味や関心を持ち、構想を練ろうとしている。	印象的な色彩表現や構成の表現を知らせ、他者に伝わる面白さについて感じ取れるようにさせる。 表したいことを言葉で書き出し整理していくことから意欲を喚起させる。
発想や構想の能力	④⑧⑩	・作品 ・制作のあしあと(ワークシート) ・授業観察	豊かに発想し形や色彩、素材などの効果を生かした表現 構想を練っている 試行錯誤を繰り返しながら 単純化や省力、強調などの洗練された美しさを踏まえて	・「地・水・火・風・空」という主題を基に美の秩序や構成の基本を利用して立体模型の表現方法を考え、形や色彩、素材などの効果に気づきながら表現の構想をしている。 ・自分の制作の方向性に適した表現方法の演習を通して主題からイメージを導いている。 ・形や素材の効果を生かしてテーマを構想するよう、表現する構想を練っている。	文字の印象からそのまま素直に表現する方法や形や色彩、素材の効果に視点をおいて伝える方法を示し、発想の導きかた等を助言する。
創造的な技能	⑥⑪	・作品 ・ワークシート ・授業観察	形を洗練させ全体と部分との調和を考えながら表現している 主題に適した材料の特性を理解し より効果的な表現を模索しながら 表現を追求	・表現のイメージを持ち、材料や用具の使い方を工夫しながら創意工夫して表現している。 ・形を単純化したり、強調した表し方を身に付け表したいイメージをもちながら、意図に応じて素材の生かし方を考え、創意工夫して表現している。	印象的な表現のために、形をすっきりさせたものや強調した表し方を伝える。 素材の扱い方のヒントさや道具の使い方を伝え実演をしながらイメージをもたせる。

「B鑑賞」の評価規準・評価方法

関心・意欲・態度	②⑬	・ワークシート ・発表	より多面的な視点から 探究心をもって	・作品の交流や鑑賞を通じて、造形的なよさや美しさ、作品の多様性を理解するとともに、自分の作品に生かすための視点を見出そうとしている。 ・作品を鑑賞し、作者の対象に対する思いや表現を感じ取ろうとしている。	自分たちの作品を校内に展示したり、多くの仲間に見てもらい、評価し合う活動を行うことで鑑賞の意欲を喚起させる。
鑑賞の能力	⑫⑭	・ワークシート ・発表	より多面的な視点から 自らの考えを見出しながら 自分なりの根拠をもって 自分の価値意識を明確にもつて	・作品が空間に与える効果を理解しながらお互いの作品のよさや美しさを味わっている。 ・自他の作品の造形的なよさや美しさについて、視点をもって感じ取り、自分の思いをもって味わっている。	分かりやすく、印象的に伝えるために、光の効果や形と色彩の効果など鑑賞の視点を確認させる。

Ⅶ 生徒の実態について

アンケート調査から美術に対する興味・関心は高く、生活において美術が必要と感じる生徒が多いことがわかった。制作においても色や形を使って何かを表現することは面白いと感じている割合が高い。しかし、個人的な活動を楽しむことができる反面、人と人とのつながりやコミュニケーションの希薄な状況が感じられる。また、美術科の視点からみると、自分自身の感じ方に自信が持てなかったり、さらには表現技術にコンプレックスを抱くなどして、心を閉ざしてしまう傾向があるように見受けられる。自分の言葉や表現で、感じたことや思いをしっかりと他者に伝えていくことは、これからの社会生活において、身につけさせたい重要な要素である。そこで本題材では、共同制作という授業形態を展開しながら、美術の基礎的な知識や技能の定着を図り、仲間とともに自分の考えやイメージを表現していくことの基本を学び、効果的な表現方法を身につけられるよう言語活動の充実や内容の配列・学習活動を工夫している。

Ⅷ 本時案

1 題材 「立体マンダラ【白い塔編】」

2 学習目標

- ・見る人（伝える人）の立場を考えたデザインの楽しさを味わうことができる。【美術への関心・意欲・態度】
- ・他と協力してテーマに沿った表現をすることができるように、自分らしい発想を広げることができる。【発想・構想の能力】

3 学習の展開

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と（評価方法）
<p>○学習内容を確認する。</p> <p>○本時の学習目標の把握する。</p>	<p>○《チベットマンダラ》の紹介をする。</p> <p>◆思いやイメージを表現するために、描かれた象徴や形に気づかせる。</p> <p>○本時の学習目標を伝える。</p> <p>◆本時の見通しをもたせる。</p>	<p>○対象を見つめ感じ取った形や色、素材の特徴を表すことに関心をもち、主体的に表現しようとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>（観察）</p>
<p>形：かたちの持つ意味を感じとり、イメージを広げ、豊かな構想をしよう。</p>		
<p>○自分に合った演習を選択し、構想を広げる練習をする。</p> <p>A コンタクトⅠ 【○】と【□】から イメージを広げる演習</p> <p>B コンタクトⅡ 生活の中から 【○】と【□】を見つける演習</p> <p>C コンタクトⅢ 【○】と【□】から 表現したい要素を表す演習</p> <p>○班内で作品の鑑賞会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を利用して、表現された作品の効果的な部分と新たに広がったイメージを記入する。 ・集まった付箋を共通のグループに整理する。 <p>○自己評価をし、本時のまとめをする。</p> <p>○次時の学習内容を確認する。</p> <p>○後始末をする。</p>	<p>○作品の特徴や効果的な表現を見つけさせ、イメージを広げさせる。 【広がるかたち】</p> <p>◆表現の工夫や意図を感じ取らせる。</p> <p>◆五感を意識した表現を見つけさせる。</p> <p>◆自由な発想でアイデアを広げさせる。</p> <p>○作品の特徴や効果的な表現を見つけさせ、イメージを広げさせる。 【対になるかたち】</p> <p>◆日本の美意識に触れさせる。</p> <p>◆自らの視点を大切に表現させる。</p> <p>○作品の特徴や効果的な表現を見つけさせ、イメージを広げさせる。 【限られたかたち】</p> <p>○各班で演習の結果を発表させる。</p> <p>◆気づいた点や参考になった部分を付箋に記録させる。</p> <p>○ワークシートを整理させ、学習を振り返り気づいたことや今後の制作に生かしたい部分を記入させる。</p> <p>○次時の説明をする。</p>	<p>○自分の制作の方向性に適した表現方法の演習を通して主題からイメージを導いている。</p> <p>【発想・構想の能力】</p> <p>（観察・ワークシート）</p>